



鷗盟館での園遊会 小田原電気鉄道開業記念

リゾート地小田原の宿泊施設

おうめいかん
鷗盟館

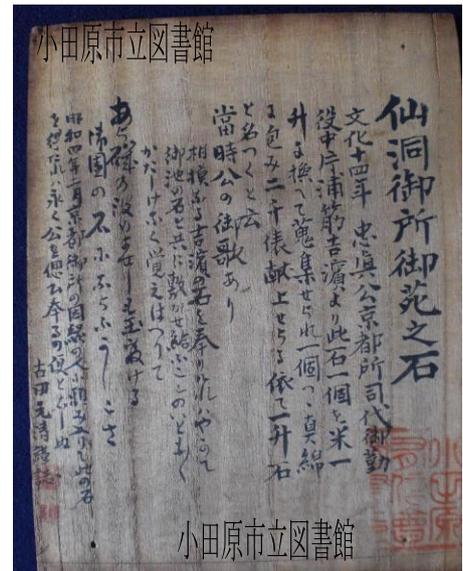
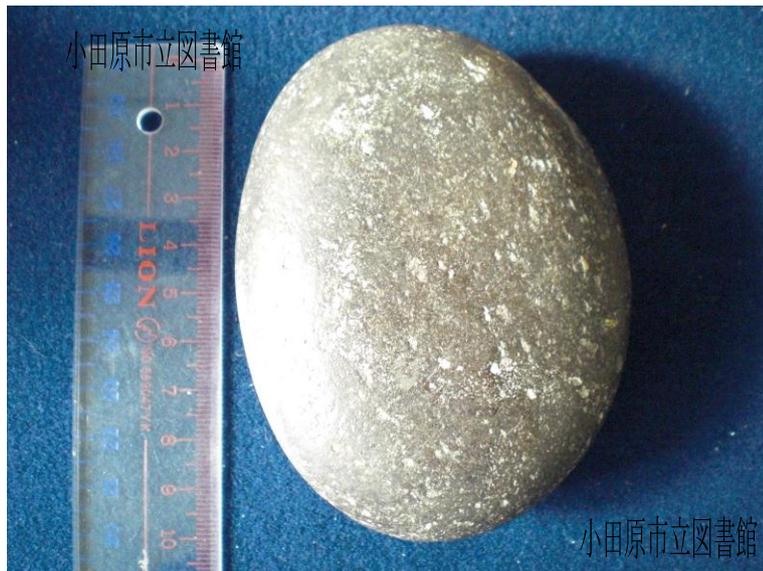
～図書館所蔵古写真から～

国府津・箱根湯本間を往来していた馬車鉄道が明治33年(1900)に電気鉄道に切り替わりました。その電気鉄道の開業を祝して御幸の浜にあった鷗盟館において園遊会が開かれました。

鷗盟館は海岸を利用したリゾート型の旅館として明治21年(1888)に御幸の浜に造られました。鷗盟館の開業当時は宿泊のための予約が必要であるほど盛況でした。また宿泊に限らずさまざまな会合や祝賀行事の会場として使われました。

小田原町でのコレラの流行により、客足が遠のいた時期もありました。一方で、箱根から直接水と温泉を引いてくるなどの営業努力が行われました。その甲斐もあり明治29年(1896)には明治天皇の皇女常宮昌子・周宮房子内親王が避寒のため滞在しました。さらに翌年には海水浴・温浴を治療に用いる小田原海浜院を併設し、療養施設も兼ね備えていくようになりました。

また小田原の海岸は伊藤博文などの別荘も建てられ活況を呈しました。ところが明治35年(1902)に押し寄せた高浪によって多くの建造物が被害を受けました。鷗盟館も例外ではなく、廃業に追い込まれてしまいました。



小田原有信会文庫 「一升石」

この資料は小田原藩旧家臣団で構成される小田原有信会が保存していた石で「一升石」と呼ばれるものです。これは小田原藩主であった大久保忠真(1781～1837)にまつわる資料です。

忠真は文化12年(1815)に京都所司代に就任しました。京都所司代とは朝廷や公家などに関する交渉をはじめ、京都周辺の司法や民政を担当する役職でした。忠真が京都所司代在任中には光格天皇の譲位と仁孝天皇即位がありました。忠真はその譲位・即位の行事に関わっておりました。

そして光格天皇が上皇として仙洞御所に移った時に、忠真は仙洞御所の修築も担当しました。その際、小田原藩領内の吉浜村(湯河原町)から庭の池の周りに敷くための石を取り寄せました。よりよい石を集めるため、石一個につき米一升と交換されました。そのため石は「一升石」と呼ばれることになりました。これらの石を真綿にくるんだ上で、俵につめて運ぶという念の入れようでした。忠真はこうした石を2000俵も献上したと伝えられています。

譲位・即位の式において忠真の家臣たちの装束や統率が優れており、また忠真が行事を古式にのっとった形で執り行ったため京都の人々が感心したと伝えられています。忠真の功績に対して上皇から褒美として大硯と在位中に着用していた「御衣」を下賜されたそうです。また忠真は和歌の才能もあり「霞の侍従」や「曙の侍従」としてたたえられました。

小田原市立図書館地域資料室 利用案内

小田原市立図書館(星崎記念館)2F

年中無休(月一回の特別整理日、年末年始は除く)

資料の出納・ご相談は9時～12時、13時～16時45分に承ります

室内の資料は貸し出しできません

※ 本紙で紹介した資料は申請いただければ、どなたでもご覧いただけます

編集後記

地域資料室に新しい資料の寄贈がありました。ここに御礼を申し上げます。

岡本弘昭様 古写真アルバム 1点